

Q

口うるさく言っても宿題を全くやりません。何から始めたらよいでしょう。

A 低 中 学 年

「宿題やったの。」「早く宿題やりなさい。」といったやり取りが日常化している家庭もあるのではないのでしょうか。

低中学年の子どもは理性が未発達のため、遊びなどやりたいことを優先しがちです。「後でやる。」と言って、遊びに行ってしまう、宿題のことを忘れて、そのままになってしまうこともあると思います。

宿題を自らやれるようにするためには、一日の中のどの時間に宿題をするのか決めてしまいルーティンにするとういことです。例えば、学校から帰ってきたらまず宿題をする、お風呂の後にすぐ宿題をする。等です。

次に宿題をしやすい環境も大切になります。テレビがついていたり、ゲームが近くにあったりする中ではなかなか集中しません。できるだけ、気が散るようなものを近くに置かず、集中しやすい環境をつくることも大切です。

そして、初めは保護者と一緒にやれるとういことです。内容を教えたり教わったりしつつ、お子さんのできたことやがんばったことを褒めることで自信がついていきます。できるようになってきたら、教える→見守る→一緒にやらず終わった後に確認する、というように少しずつ離れていくとういでしょう。ただし、順調にできるようになっても、またやらなくなることもあります。その場合は、また一緒にやるからやり直すとういでしょう。

また、宿題をやらない理由として、学習内容が理解できていなかったり、本人にとって量が多すぎてしまったりすることもあります。そのような場合には、教えながら一緒に宿題をやるのがよいです。また、担任の先生に相談してみるのもよいでしょう。

A 思春期

この時期になると、①楽しいことを優先してしまい宿題をやらない場合、②学習している内容が高度になっているために、できない問題がたくさんあったり、やり方がよくわからなかったりしてやらない場合、③本人にとって量が多すぎて疲弊している場合が考えられます。

①については、「いつやるのか」「どこでやるのか」「ルールを守れなかった場合どうするのか」等宿題についてのルールを作るとよいと思います。ルールは保護者が一方的に与えるのではなく、本人の考えを引き出しながら、納得しながら一緒に作っていくとよいです。またルールは一度作ったら終わりではなく、定期的に見直していくとよいでしょう。

②や③については、学校の先生に学習内容の理解度や本人の課題、学習方法を相談して対応していくのが良いでしょう。宿題内容が難しいようであれば、量の調整や特別に課題を出してもらえるよう相談してみることもお勧めします。

そして、どちらの場合についても、できるようになったこと、がんばっていることについてはポジティブな言葉かけをしていきましょう。

コラム

「発達特性②」

- ・多動性・衝動性（じっとしている事が苦手、急に立ち歩く、人が話している最中に喋り出す）
- ・読むのが苦手（読むのが遅い、読み間違いが多い、読んでも意味が理解できない）
- ・書くのが苦手（文字を正確に書けない、句読点をうまく打てない、自分の考えをうまく表現できない）
- ・計算が苦手（数字の大小の関係の理解が難しい、数量の比較が直感的に理解できない）
- ・運動が苦手（走る姿がぎこちない、球技が極端に苦手、自転車に乗れない）
- ・手作業が苦手（字が汚い、ハサミを使うのが苦手、食べ物をよくこぼす）

